

令和7年度 保育所における自己評価

園名 佐賀市立川原保育所

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。このことに基づき、佐賀市公立保育所では、毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた、改善や充実に取り組んで参ります。

園目標	
(保育理念) (保育方針)	感性豊かで、心も体も健やかな子どもの育成 ・子どもの主体性や自発性を大切にした保育を行う ・一人一人の特性に応じた保育を行う ・人との関わりを大切にした保育を行う
(保育目標)	○心も体も健やかな子ども ○人との関わりを喜ぶ子ども ○伸び伸びと自分を表現する子ども

【評価結果の表示方法】 ※評価するにあたっては、以下のような基準で行っています

A：90％以上・・・十分達成されている

B：70～89％・・・達成されている

C：50～69％・・・取り組みがされているが、成果が十分ではない

D：49％以下・・・取り組みが不十分である

評価項目	ABCD 評価	評価内容
保育方針・保育目標	B	保育方針・目標を理解し、保育内容に活用していた。職員間で共通理解を図る取り組みが進んだ。
子どもの発達援助	B	一人一人の発達を踏まえ、個別の配慮を行いながら保育を進めた。環境構成の工夫が今後の課題である。
保護者との連携	A	個人懇談・クラス懇談・送迎時の情報共有を通して、家庭との連携が円滑に図られた。
地域との連携	B	小学校・公民館・地域施設等との交流を行い、地域資源を活かした活動ができた。
運営・管理	B	役割分担が明確で、必要な連携が図られた。会議等の進行や情報共有の改善点が見られた。
職員の資質向上	B	園内外研修に積極的に参加し、学びを保育に活かす姿勢が見られた。特別支援に関する研修が充実した。
健康・安全	A	安全点検・避難訓練・衛生管理を計画的に実施し、職員間で改善点を共有しながら取り組んだ。
食育	B	栽培活動や食育指導を通して、食への関心を高める取り組みができた。

総合評価

【保育方針・保育目標】

・月1回の話し合いを中心に、保育方針・目標の共通理解を深める取り組みを行った。保育計画の作成や日々の保育において理念を意識した実践が進んだ一方で、クラス間で保育観に差が見られる場合もあり、日常的に語り合う機会の充実が課題となった。

【子どもの発達援助】

・子どもの主体性を尊重し、発達段階に応じた援助を行った。個別の記録や指導計画を活用し、関係機関との連携を図りながら、特性の理解に努めた。今後は、保育士の関わりだけでなく、子どもの発達に応じた環境構成の工夫をさらに進めていく必要がある。

【保護者との連携】

・個人懇談、クラス懇談会を全クラスで実施し、家庭との連携が深まった。送迎時に子どもの情報共有や写真・掲示物によるドキュメンテーションも好評であった。今後も保護者が園の保育を理解しやすい発信を継続していく。

【地域との連携】

・小学校、公民館、医療施設等の交流を通して、地域とつながる活動ができた。特に小学校との連携では、意見交換や年長組の小学校探検活動を行うことができた。今後は幼保こ小の連携をさらに強め、子ども同士の交流機会を増やしていく。

【運営・管理】

・業務の役割分担を明確にし、組織としての働きが安定した。会議の進め方や事前の打ち合わせの不足が課題としてあがり、後半は改善が見られた。今後は効率的な情報共有体制の構築を進めていく必要がある。

【職員の資質向上】

・園外研修の参加率が高く、学びを園内で共有する体制が整った。特別支援教育に関する研修を重点的にを行い、保育の質の向上につながった。公開保育を通して保育内容の統一や振り返りが深まった。

【健康・安全】

・避難訓練・安全点検・衛生管理を計画的に実施し、改善点を共有しながら取り組んだ。老朽化した施設の安全確保に引き続き留意していく必要がある。

【食育】

・栽培活動や食育指導、クッキング活動を通して、食への興味を育むことができた。今後は年齢別に応じた食育活動や園の保護者の試食会等の機会を設け、親子で食の関心が高まるようにしていく。

次年度に向けた取り組み

◎職員の保育力を高める

- ・子どもの姿を語り合う機会を増やし、保育観の共有を図る
- ・子どもの主体性を尊重した保育や特別支援教育について学び合う

◎チーム保育の充実

- ・組織の一員としての自覚をもち、互いに支え合う体制づくりを進める

◎保護者・地域との交流を深める

- ・全クラスで個人懇談、クラス懇談会を継続
- ・小学校、公民館、地域機関との連携を強化し、交流機会を増やす

以上の結果を踏まえ、令和8年度も子どもたち一人一人の育ちを大切に、保護者・地域と共により良い保育を目指して取り組んで参ります。